

ジンバブエと漫画でつながる、国際文化交流プロジェクト始動 ～ ジンバブエの若手漫画家を応援 ～



写真は左から、株式会社カイカフィナンシャルホールディングス 代表取締役社長 鈴木 伸、ジンバブエ共和国特命全権大使 ステュワート・ニャコチョ氏、株式会社実業之日本社 代表取締役 岩野 祐一

株式会社カイカフィナンシャルホールディングス（本社：東京都港区、代表取締役社長：鈴木伸）と株式会社実業之日本社（本社：東京都港区、代表取締役社長：岩野裕一）は、駐日ジンバブエ大使館の三者は、ジンバブエの若手漫画家を支援し、作品を日本で発信する国際文化交流プロジェクトを共同で立ち上げることに合意しました。

本プロジェクトの概要

本取り組みは、ジンバブエの若手漫画家が描く作品を日本語で紹介し、出版・プロモーションを通じてデビューの機会を提供する支援プロジェクトです。

見据えるビジョンとして、出版業界の“グローバル文化発信”の新しいモデルケースとなることを目指します。

文化とは「知ってもらう」ことで始まり、「応援される」ことで育ちます。

作品には、彼らのリアルな社会、文化、家族や夢が描かれ、日本の読者にとっても新たな視点と感動をもたらします。

漫画という普遍的な表現を通じて、世界中の若者と読者がつながる ―――そんな未来を描いています。

「なぜジンバブエなのか？」 ― プロジェクトに込められた真の狙い

ジンバブエでは、日本のアニメや漫画が若者に大きな影響を与えています。本プロジェクトは、「ジンバブエの才能を日本へ届ける」をテーマに、日本の漫画・アニメ文化への高い関心と情熱を持つ、多様な才能豊かな若手クリエイターの発掘を目的としています。「JAPANDAY」や「Otakukon」といったアニメ・コスプレを軸にした文化交流イベントが定期的に行われ、数百人から千人以上もの参加者が集まっています。これは、日本文化への関心の高まりを示す明確な証拠です。

2000年代後半に深刻な経済的ハイパーインフレーションを経験したものの、近年ジンバブエ経済は回復基調にあり、現在は国民の生活水準向上と持続可能な開発目標（SDGs）の達成に注力しています。特に若者のエンゲージメントは重要課題となっており、失業中の若者に成長の機会を創出することが国家としての重要なテーマになっています。こうした中、漫画を通じた創造的パートナーシップは、若者が秘める才能を引き出し、彼らが個人的な成長と成功の機会を得るための優れたチャンスとなります。

刻々と変化する社会環境の中で、漫画は若者たちにとって希望の光として登場しています。漫画は若きクリエイターが自らの物語を世界と共有する手段となりつつあります。ますます多くの若者が創造的な表現活動に参加し、漫画を自らの声を世界に届けるための強力なツールとして捉えているのです。

実績と技術で支援の「透明性」を

実業之日本社は、創業 128 年の歴史、編集力と出版ネットワークを活かし、単なる“翻訳”ではない、**現地作家と伴走する創作支援**を展開します。

また、カイカフィナンシャルホールディングスは、**デジタル金融の知見**を基に、ブロックチェーン技術を活用した IT サービスを提供します。

最新の技術を活用して、「誰が誰をどう応援しているのか」が見える形で構築することを目指します。デジタル技術を“投資のため”ではなく“透明性と継続性のため”に活用する、**文化支援の新しいかたち**を提示します。

ジンバブエ共和国特命全権大使 ステュワート・ニャコチョ氏 コメント

「ジンバブエの若者たちは、困難な環境の中でも創造の力を信じて生きています。このプロジェクトは、彼らが描くストーリーを世界に届けるチャンスであり、日本の皆様と心を通わせる架け橋になると信じています。」

実業之日本社 代表取締役社長 岩野 裕一 コメント

「出版は、国や言葉を超えて“声”を届ける仕事です。ジンバブエの漫画家たちが自分の言葉で物語を描き、日本の読者と出会う。そんな出会いが、未来の文化を育てると信じています。」

カイカフィナンシャルホールディングス 代表取締役社長 鈴木 伸 コメント

「デジタル金融技術を通じて、ジンバブエと日本の文化や価値観を結びつける架け橋となり、両国の新たな関係の構築に繋がると信じています」

以 上

会社概要

株式会社カイカフィナンシャルホールディングス

代表取締役 鈴木 伸

東京都港区南青山5丁目11番9号

<https://www.caica.jp/cfhd/>